

A & F

COUNTRY

2016

大自然に触れて生きる 喜びをキャンヴァスに描いて

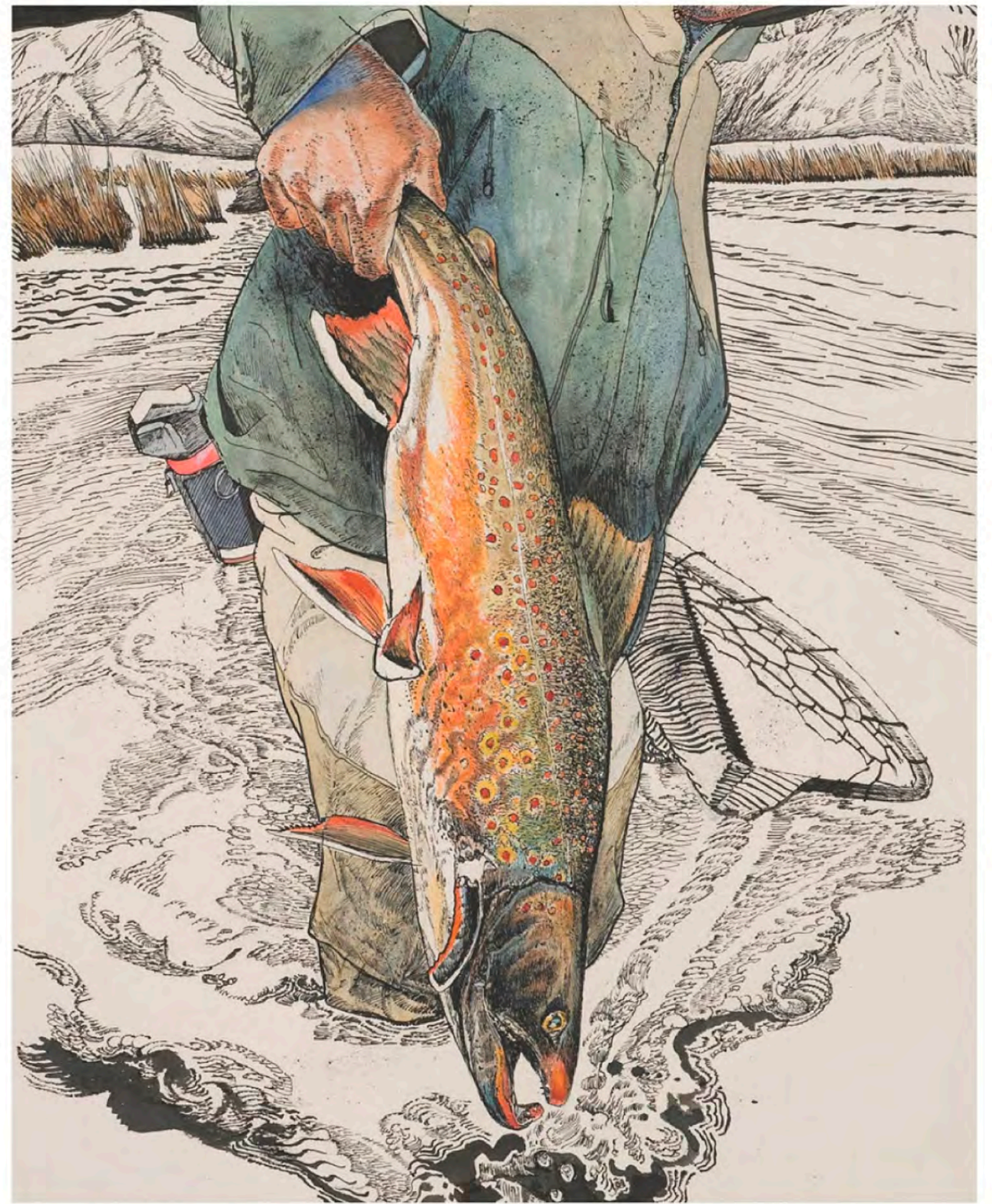
Drawing the life of gladness while touching
a grand nature

ジャック・アンルー

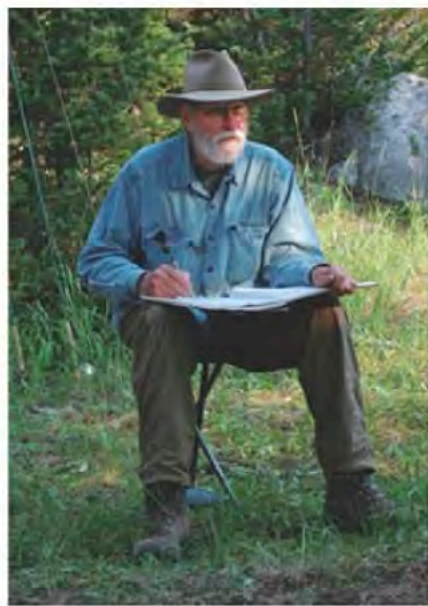
Jack Unruh

数々の名誉ある賞を受賞したジャック・アンルー。
独特なタッチで描かれる彼の絵は、自然に対する愛情と敬意に溢れ、
見る者にアウトドアの素晴らしさを再認識させてくれる。
ハンティングと釣りをこよなく愛するジャックが、自身のルーツを語った。

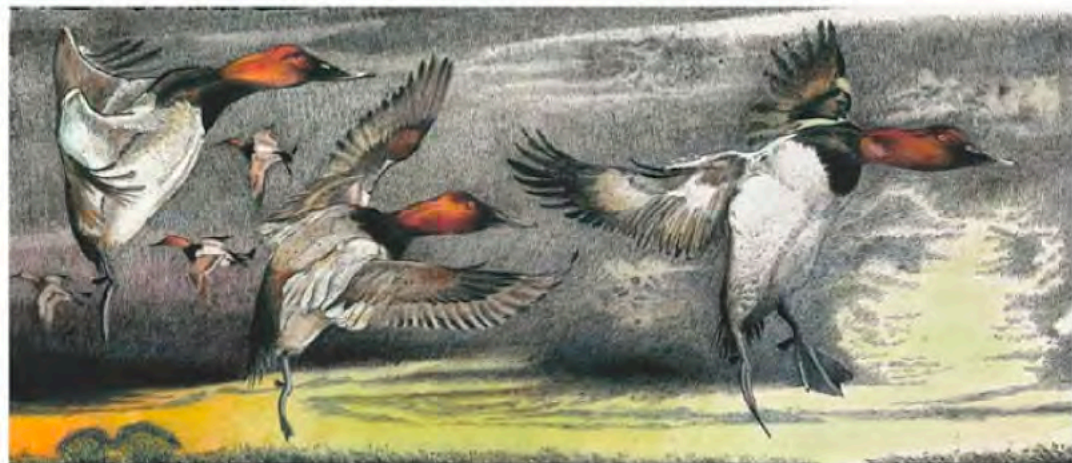
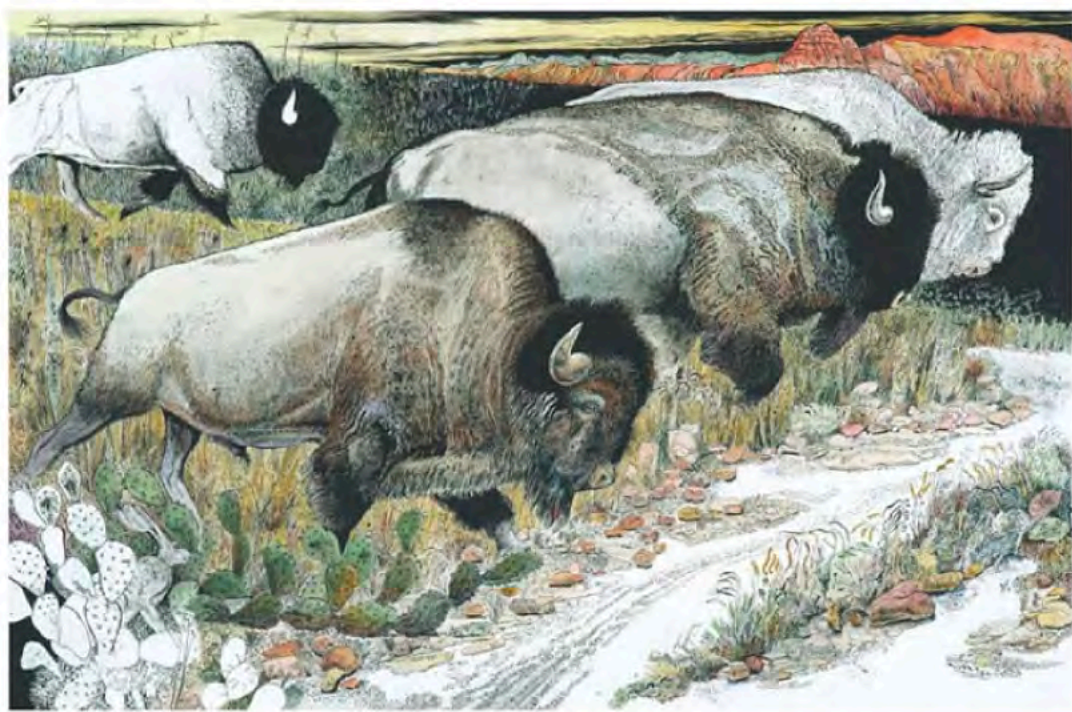
ILLUSTRATION Jack Unruh



釣り上げられたアーキティック・チャー(北極イワナ)



ジャック・アンルー Jack Unruh
1935年生まれ。アウトドアをこよなく愛するイラストレーター。企業の商業イラストを数多く手がけ、いくつもの名誉ある賞を受賞。1988年から、A&Fカタログの表紙イラストを描いている。



- | | |
|----|----|
| 01 | 03 |
| 02 | 04 |

- 01 | バッファローの群れ
02 | 飛び立つアメリカンホシハジロ
03 | ソックイサーモンを捕らえるグリズリー
04 | 水辺で休憩するムース

アウトドアを愛する、最高のイラストレーターとの出会い

もう30年以上も前になりますが、アメリカのナショナルジオグラフィック、フィールド&ストリームなどの古雑誌を見ていた時に、いつも気になるイラストがありました。そのイラストは水彩画のように見え、陰翳を含んだ趣がありながら、ワイルドライフや憧れのアウトドアシーンを的確に表現していました。

イラストレーターの名は、ジャック・アンルー (Jack Unruh)。彼はアウトドアスポーツに精通したスポーツマンだと確信していました。いつか彼にイラストを描いてもらいたいと願っていました。そして、アートの仕事をしているアメリカの友人が彼を探し出しました。テキサス州に住んでいることが分かり、あるアウトドアの展示会の際、ついに会うことができました。

彼とフライフィッシング談義をし、想像どおりのアウトドアマンであり、とても感激したことをよく覚えています。その時、快く我々のためにイラストを描くことを承して頂き、1988年以来、A&Fカタロ

グの表紙を飾っています。

本誌の表紙で会心の笑みを浮かべているフライマンは、ジャック・アンルーその人です。

引っ越しを繰り返した幼少期

—あなたのルーツを教えてください。

ジャック 私は、カンザス州プリティー・プレーリーの農場で生まれました。父は陸軍航空隊に所属しており、私が生まれた1年後、パナマへ配属されました。私が6歳の時に第二次世界大戦が勃発し、その年は4回引っ越しました。私は他の子供たちと同様、ラジオの前に座り、ローン・レンジャーやキャプテン・マーベルの話に聴き入っては、聴いた話の絵を描いていました。

終戦後、我々はユタ州に移り住み、そこで初めてフライフィッシングを覚えました。以前は池の前に座り、コルクが沈むのをジッと見て過ごす退屈な日々でしたが、ユタではフライロッドが魔法の棒のよう



に感じることができ、キャスティングを大いに楽しみました。

本物の虫そっくりのフライを作り、魚を探しながら小さなクリークを行ったり来たりしていました。そうして、どんどん釣りに魅了されていきました。

やがて、自分の人生をどう歩むべきか、大きな決断する時が来ました。釣りへの情熱のほか、物理学、植物学に興味があったので、猟区管理人や森林警備隊員になろうと考えました。しかし、父に指摘されたのです。猟区管理人や森林警備隊員になると、皆が釣りや狩りを楽しんでいる間に働かなければならない、と。そして、父は私に絵を描いて生計を立て、釣りは趣味にしたらいいのでは、と提案してくれました。

私は今まで、父親の薦めでアーティストになったイラストレーターに会ったことはありません。しかし、私の父はとてもクリエイティブで、アートに深い理解のある人でした。彼は軍隊で働いていましたが、これまでにレースカー、ボート2隻、バイク、そして国内EAA (実験航空機協会) の複製機 (揚力を得るための主翼が2枚以上ある航空機) 部門で最優秀賞を獲得したの飛行機を3機作り上げていました。

そして、私はセントルイスにあるワシントン大学に入学し、マガジン・イラストレーションを専攻し、1958年に卒業しました。その年の10月にテキサス州ダラスに移り住み、イラストレーターとしてのキャリアを歩み始めたのです。今でも妻ジュディとダラスに住んでおり、4人の子供と4人の孫に恵まれました。孫は、私と一緒に釣りやハンティングをエンジョイしています。

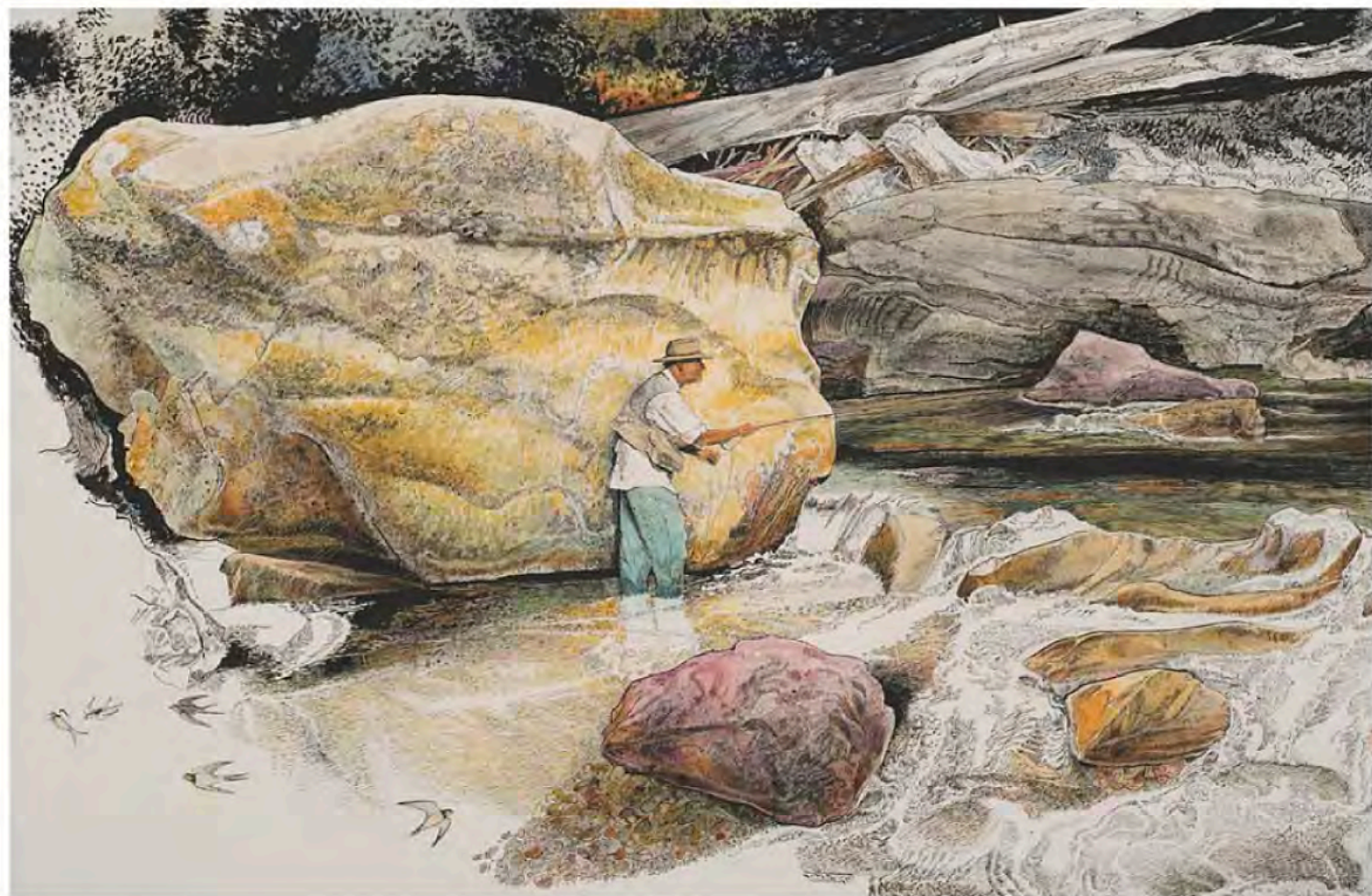
仕事について

—アウトドアスポーツに関連した数多くのイラストを発表していますが、何がきっかけでアウトドアに興味を持ったのですか。

ジャック 芸術は、アーティストが興味を持つ世界観が大いに影響します。小さい頃からハンティングや釣りを始め、高校では生命学に興味を持っていた私が、自然を愛し、アウトドアスポーツに興味を持つことはごく自然なことでした。私の原風景が、描く絵となり、イラストレーターとしてのキャリアに影響しているのでしょう。



原野を駆けるデザートミュールディア



渓谷でフィッシングを楽しむ



ティエラ・デル・フエゴの巨大魚

—あなたの仕事について教えてください。

ジャック 私はイラストレーターとして、旧石器時代人の調査をするためにヨーロッパの洞窟を這いずり回り、ナショナルジオグラフィックの調査ではヘリコプターに乗ったり、車中泊をしながらエクソンバルティーズ号の原油流出事件後の影響を目的に当たりにしてきました。また、釣りやハンティング雑誌の仕事のために、アラスカやチリの辺鄙な川を渡ったこともあります。年間レポートの仕事では、研究施設や精製所を見学したり、砂漠、コールド・ルーム、山頂やメキシコのメジャーな醸造所も訪れたことがあります。

私のペンと水彩の技術は、想像力豊かで概念的なものから、写実的で解釈的なものまで、広範囲に描き分けます。A&Fのカatalogの表紙に描いている絵は、写実的なスタイルにあたります。それと同様に、

大自然が力強く描かれているイラストは、自然やアウトドアスポーツがメインのクライアントに提供しています。例えば、ナショナルジオグラフィック、スポーツフィールド、フィールド&ストリーム、サイエンティフィックアメリカン、アメリカ最大の非営利動物園のフェニックス動物園、ニューヨークのブロンクス動物園(コンゴ熱帯雨林展示会)、ミズーリ州のセントルイス動物園、エディバウアー、などです。

また、私の作品の出版物は、エンターテインメントウィークリー、ローリングストーン、アトランティックマンズリー、タイム、スポーツイラストレイテッド、リーダーズ・ダイジェスト、ニューヨークマガジン、GQ、ロード&トラック、そしてテキサスマンスリーなどから出版されています。

企業広告では、IBM、シティコープ、エクソンモービル、バドワイザー、アメリカン航空、チャンピオンペーパー、インターステートバッテリー、ジョージアパシフィック、ブロンクス動物園、ケンダル・ジャクソン、バックベル、ハーマンミラー、ソニーなどに使われています。

画風について

—人生の中で、自然との関わりはどのような意味を持ちますか。

ジャック 私のデザイン構成に大きな影響を与えてくれたアーティストが、ペン画の鬼才と呼ばれたオーブリー・ピアズリーと、絢爛かつ妖艶な画風で知られるグスタフ・クリムトです。私は、テクスチャと被写体が創り出す抽象的な有機体(生物)が好きなのです。例えば、表面をどんなにクレイジーなデザインにしても、そこへアヒルを描いたら水になるということです。

私は、森の絵を描く時、まず木を描きます。木、石、鳥、を森になるまで増やし続けるのです。そして、絵の中に少し遊び心を取り入れます。自然界には、たくさんの生き物が潜んでいます。彼らは、間違いなくそこにいるのですが、自然と同化しているため、見つけるのに時間が掛かります。私の絵も、そのような状態でありたいと思っています。長い間、ジッと空間を見ることでそれを見つけ出すことができます。見る者がそれを見つけた時は、報われた気持ちになるでしょう。

—どのような絵を描くことを心掛けていますか。

ジャック 私はグワッシュ(絵の具の一種)水彩画を使用した画家になろうと考え、絵を描き始め、その後アクリルを取り入れました。最終的に、自分は線を使ったアートに向いていることに気づいたので。何年か黒いインクを使った絵を描き続け、少しずつ色を取り入れ始め、今の画風になりました。私は、この結果にとっても満足しています。—あなたのイラストは野生動物を生物学的に知った上で描いているので、生き物がリアルで、活き活きとしています。フライフィッシング以外に、アウトドアアクティビティの経験はありますか。

ジャック 釣りをしていない時は、愛犬たちと野鳥狩りを楽しんでいます。毎年、秋になると友人とサウスダコタ、カンザス、そしてテキサス西部に狩猟に出かけます。もっとも大切にしている事は、愛犬たちが鳥を狩る姿を見ることです。

愛する妻と、最高のフィッシングを

—フライフィッシャーとして、海外を含め様々な川へ行っていますが、思い出に残っている場所と、その醍醐味を教えてください。

ジャック 釣りを始める時は、時に美しい川で、時に辺鄙な地域で、思いつきで始めます。釣り以外では、小川の音や匂い、そして冷たい水が私を癒してくれます。私はテキサス州に住んでいるので、夏は本当に暑い。だから、涼しい気候は最高です!

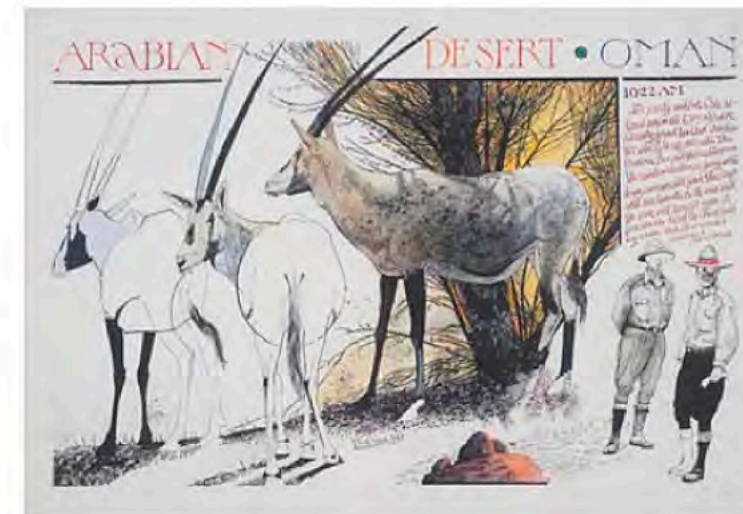
仕事柄、そして探検心が強いことから、私は様々な場所で釣りをしてきました。妻とチリ南部の海岸沿いを、シーランブ라운を探しながら20フィートのボートで旅をしました。

アメリカ国内はもちろん、スコットランドのヘブリディーズ諸島に行った時も釣りをしました。アラスカ、ワイオミング、ユタ、モンタナ、アイダホ、サウスダコタ、オリンピック半島、メキシコ湾、コロラド、ニューメキシコ、アーカンソーそしてバージニア。いつも、妻の方が僕より大きい魚を釣るんだ。彼女は、今でも毎年ワイオミングやモンタナへ一緒に来てくれます。キャンプファイヤーの煙や雪、雨、霧、そしてグリズリーに遭遇しても、毎年一緒に来てくれる。なんて心の優しい女性だろう!

目標に向かって

—これから、イラストレーターとして作りたい作品のテーマはありますか。

ジャック 今年のテーマは、今製作しているアートブックの出版社を見つけることです。このアートブックは、1986年にジャーナル/スケッチブックとしてスタートしました。パブロ・ネルーダの「アート・



フェニックス動物園に提供したイラスト

オブ・バード」のイラストの仕事を終えてすぐ、翻訳家のジャック・シュミットが電話をくれました。色々な話をするなかで、二人とも釣りに情熱を持っていることがわかりました。意気投合した私たちは、チリに3週間の釣り旅行に出掛けました。その際、新しいジャーナル/スケッチブックを持って行ったのです。その冒険の時から旅行にスケッチブックを持って行くようになり、旅行の記録を残すようになりました。

時が経ち、このスケッチブックはより洗練され、イラストレーションに活用するためにたくさんの写真を撮るようになり、今ではアートブックを製作するまでになりました。

ほとんどの作品は、夕方から夜にかけて、大抵とても疲れている時に、アルコールを片手に暖炉の炭が燃え尽きるのを待ちながら描きました。日が沈み、辺りが暗くなっていくにつれ、読みやすく描くのが難しくなっても、私は毎日の出来事を記録し続けました。

そこには、ちょっとした日常や冒険を描きます。大きな魚をヒットさせたものの、途中で逃げられたり、川辺で家族や友人たちとちょっとしたお喋りを楽しんだこと。天候や、フライショップ、レストラン、モーター、電話番号、ちょっとしたメモもページの端に走り書きしておきます。

“Fish and Other Stories as My Pen Remembers Them (私のペンが記憶している魚やその他の物語)”は、空想の物語や思い出、アーティストやスポーツマンの哲学がふんだんに盛り込まれた自然の世界へと読者を導く作品なのです。



アークティックチャーが泳ぐ水辺のワイルドドライブに溶け込んだ、朽ちたクラシックカー